

日本・ASEAN 間のコンテナ輸送動向（①輸出）

掲載誌・掲載年月：日刊 CARGO1505

日本海事センター企画研究部

研究員 松田 琢磨

日本・ASEAN 間コンテナ輸送の概況

ASEAN 地域は 21 世紀に入ってから堅調な経済成長を続け、00～14 年の ASEAN 加盟 10 か国の平均実質経済成長率は年 5.7%にのぼる。また、ASEAN 加盟 10 か国の名目 GDP は 00 年には合計 6,255 億ドルで日本の GDP の 13.2%にすぎなかったが、14 年には 2 兆 4,745 億ドルとなって日本の 53.6%にまで達した。域内の経済的紐帯の強化も図られており、15 年末には ASEAN 経済共同体が発足する見込みとなっている。

日本と ASEAN の経済的結びつきも年々強まっている。02 年のシンガポールとの経済連携協定（EPA）以来、09 年までにカンボジア、ミャンマー、ラオス以外の 7 か国が日本と 2 か国間 EPA を締結した。ASEAN 全体との EPA も 08 年から順次発効している。日本からの直接投資額も大きく増加しており、00～04 年における ASEAN 地域への直接投資額は年あたり 27.8 億ドルであったが、10～14 年には年あたり 166.5 億ドルまで増えた。

経済的紐帯の強化は、貿易拡大にも表れている。00 年には日本から ASEAN 加盟国への輸出額が 7.4 兆円、輸入額が 6.4 兆円だったが、14 年にはそれぞれ 11.1 兆円、12.3 兆円まで拡大した。14 年の輸出額は米国、中国に次ぎ第 3 位、個別国で見てもタイが 6 位、シンガポールが 7 位、インドネシアが 9 位に入っている。輸入額は中国に次ぐ第 2 位で、個別国で見てもインドネシアが 8 位となっている。ASEAN から見ても貿易相手としてのプレゼンスは大きく、13 年時点で日本は中国に次ぐ第 2 位の輸出先で、輸入元としても中国、EU に次ぐ第 3 位だった。

金額ベースで見ると、ASEAN 向け輸出では企業内貿易の拡大を反映して資本財や部品が半分以上を占め、ASEAN からの輸入では加工品や消費財が 6 割を超える。むしろ、日本・ASEAN 間貿易には海上コンテナが大きく貢献しており、21 世紀に入ってから海上コンテナ貨物の割合は増加している。金額ベースでみた海上コンテナ貨物の割合は 00 年において輸出 43.1%、輸入 35.7%であったが、14 年には輸出 51.2%、輸入 45.6%まで上昇した。

日本・ASEAN 間コンテナ輸送の動向については、アジア域内航路の荷動きデータがあまりないこともあってあまり知られておらず、動向をまとめることには一定の意義があると考えられる。今回と次回の記事では日本・ASEAN6 か国間（ベトナム、タ

イ、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア) のコンテナ輸送の動向につき、財務省「貿易統計」のデータを使用し、二回に分けてまとめていくこととしたい。なお、カンボジア、ミャンマー、ラオス、ブルネイの4か国については、金額ベースでみて輸出で1.1%、輸入で2.9% (いずれも14年) と割合が小さいことから今回の記事では割愛させていただく。

日本積み・ASEAN6 各国揚げコンテナ輸送の推移

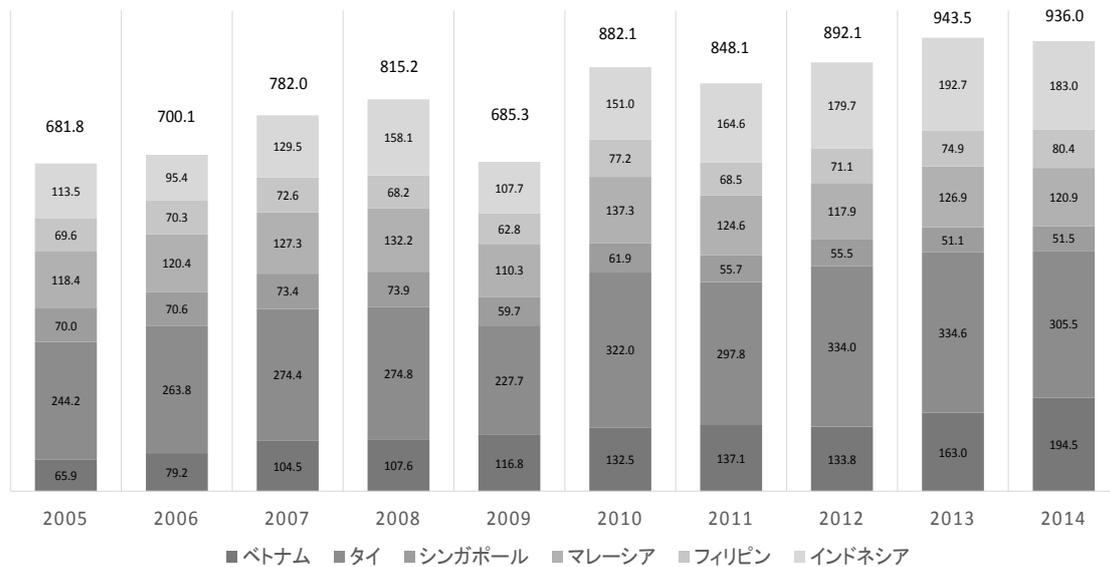
05年における日本積み・ASEAN6 各国揚げコンテナ輸送量は合計681.8万トンだった(図参照)。この時点で最も輸送量が多かったのはタイ揚げのコンテナ貨物であり、35.8%のシェアを占めていた。それに次ぐのはマレーシア揚げとインドネシア揚げでそれぞれ15%強、ほかの3か国揚げはそれぞれ10%前後だった。

その後、輸送量は08年まで順調に増加したが、09年にはリーマン・ショック後の経済状況の悪化を受けて15.9%減の685.3万トンとなった。10年以降は前年比減少の年(11年と14年)もあったものの基本的には増加傾向が続いており、14年のコンテナ輸送量は936.0万トンとなった。この値は05年と比べ37.3%増、年平均では3.6%の増加となっている。TEUあたりの平均的重量を10トンとするとこれは93.6万TEUに相当し、日中往航の115.1万TEU(14年)には及ばないものの、日韓往航の87.6万TEU 65.3万TEU(13年)とは同等、北米往航の65.3万TEUや欧州往航の55.9万TEUは上回っている。

6か国の中で最も輸送量が多いのは14年においてもタイ揚げで変わっておらずシェアは32.6%となっている。ベトナム揚げ、インドネシア揚げがそれに次いでおり、シェアはそれぞれ約20%となっている。

近年の日本積み・ASEAN6 各国揚げコンテナ輸送量増はこれら3か国向け貨物の増加でほぼ説明できる。輸送量の増加37.3%の内訳は、ベトナム揚げの増加が18.9%分、インドネシア揚げの増加が10.2%分、タイ揚げの増加が9.0%分となっており、これで37.2%分が説明されてしまう。

一方でフィリピン揚げ、マレーシア揚げの輸送量は大きく増えておらず、シンガポール揚げの輸送量が減少している。05年時点でシンガポール揚げは70.0万TEUであったが、14年には51.5万TEUとなった。



図：日本積み・ASEAN6 各国揚げコンテナ輸送の推移（2005～2014 年、単位：1 万トン）
 データ出所：財務省「貿易統計」より筆者作成

日本積み・ASEAN6 各国揚げコンテナ輸送の品目別動向

14 年における日本積み・ASEAN6 各国揚げコンテナ貨物のうち、最も輸送量が多かった品目は「鉄鋼」で全体の 15.1%を占めている。さらに具体的な品目をみるとベトナム・タイ・インドネシア揚げのフラットロール製品やタイ・インドネシア揚げの棒製品が多くを占めている（表参照）。第 2 位は「機械類」で 13.1%のシェアを占めている。内訳をみると自動車関連の製品が多くを占めている。たとえば、マレーシア・タイ・インドネシア揚げのエンジンやエンジン部品、ベトナム・タイ揚げのフォークリフト、タイ・インドネシア揚げへの伝動軸などが挙げられる。第 3 位は「自動車・部品」で、シェアは 12.2%となっている。インドネシア揚げの貨物自動車（車両総重量 20 トン以上）のロックダウン製品が最も多く、次いでタイ・インドネシア揚げのギアボックスや駆動軸、車体部品などが多い。ASEAN へはタイを中心に日系自動車メーカー、自動車部品メーカーが多く進出しており、上位品目をみると原材料や部品を運ぶために鉄鋼も含め、自動車関連の製品が多くコンテナ輸送されていることがわかる。

第 4 位は「プラスチック及びその製品」でシェアは 9.1%となっている。ベトナム・インドネシア・タイ揚げのポリ塩化ビニルの塊・粉やタイ・インドネシア揚げのポリエチレン、インドネシア揚げのアクリル重合体、ベトナム・マレーシア揚げの廃プラスチックなどが荷動きの多い品目だった。第 5 位は「パルプ・古紙」であり、シェアは 8.6%となっている。うち 87.2%はベトナム・タイ揚げの古紙で、両国向けの輸出は中国、韓国に次いで多い。古紙や廃プラスチックは日中航路でも上位品目だが、東南アジアに向けた輸出も多く行われている。

第6位は「紙・板紙類」でシェアは5.6%となっている。タイ・ベトナム揚げの段ボール用中芯原紙、マレーシア・ベトナム揚げのフィルターペーパー、ベトナム・タイ・インドネシア揚げの筆記用・印刷用の紙といったものが上位を占めている。第7位は「ゴム及びその製品」でシェアは3.9%となっている。タイ・インドネシア・ベトナム・マレーシア揚げの合成ゴムが約3分の2を占めている。それ以外ではマレーシア揚げの貨物自動車用タイヤの量が多い。第8位は「有機化学品」で3.8%のシェアを占めている。タイ揚げのオクチルフェノール及びノニルフェノール類、インドネシア・シンガポール揚げのイソシアナート類といったものが多くなっている。

第9位は銅及びその製品で、シェアは2.6%となっている。日本から輸出されるこの品目のうち約20%がASEAN向けとなっており、精製された銅の塊がその半分を占めている。第10位は電気機器及びその部品であり、シェアは2.6%となっている。タイ揚げのエンジン用のイグニッション部品、ベトナム・マレーシア揚げのケーブル、インドネシア揚げの発電機・電動機用の部品などが多い。

表：日本積み ASEAN6 各国揚げコンテナ輸送量の品目別輸送量（2014 年、単位：万トン）

ベトナム				タイ			
HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア	HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア
72	鉄鋼	46.0	23.7%	84	機械類	43.7	14.3%
47	パルプ・古紙	33.5	17.2%	72	鉄鋼	43.2	14.1%
84	機械類	23.6	12.1%	47	パルプ・古紙	37.0	12.1%
39	プラスチック及びその製品	17.6	9.0%	87	自動車・部品	27.9	9.1%
87	自動車・部品	12.8	6.6%	39	プラスチック及びその製品	25.2	8.2%
48	紙・板紙類	12.1	6.2%	48	紙・板紙類	20.1	6.6%
03	魚介類・エビカニ	6.5	3.4%	40	ゴム及びその製品	12.1	4.0%
40	ゴム及びその製品	4.9	2.5%	29	有機化学品	11.9	3.9%
85	電気機器及び及びその部品	4.6	2.4%	73	鉄鋼製品	9.0	3.0%
29	有機化学品	3.2	1.6%	03	魚介類・エビカニ	9.0	2.9%
	その他	29.8	15.3%		その他	66.5	21.8%
	合計	194.5	100.0%		合計	305.5	100.0%

マレーシア				フィリピン			
HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア	HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア
87	自動車・部品	19.0	15.7%	87	自動車・部品	15.6	19.4%
84	機械類	16.4	13.6%	72	鉄鋼	10.6	13.2%
39	プラスチック及びその製品	12.9	10.7%	39	プラスチック及びその製品	7.5	9.3%
63	紡織用繊維のその他の製品・中古衣類など	12.6	10.5%	84	機械類	7.3	9.0%
48	紙・板紙類	10.6	8.8%	00	再輸出品	4.3	5.4%
40	ゴム及びその製品	7.6	6.2%	85	電気機器及び及びその部品	3.7	4.6%
72	鉄鋼	5.9	4.9%	48	紙・板紙類	3.6	4.4%
74	銅及びその製品	5.5	4.6%	74	銅及びその製品	2.6	3.2%
29	有機化学品	4.1	3.4%	44	木材及びその製品並びに木炭	2.5	3.1%
70		3.3	2.7%	63	紡織用繊維のその他の製品・中古衣類など	2.3	2.9%
	その他	23.0	19.0%		その他	20.5	25.5%
	合計	120.9	100.0%		合計	80.4	100.0%

インドネシア				シンガポール			
HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア	HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア
87	自動車・部品	38.0	20.7%	84	機械類	10.1	19.5%
72	鉄鋼	31.9	17.4%	39	プラスチック及びその製品	6.1	11.8%
84	機械類	21.8	11.9%	29	有機化学品	4.8	9.3%
39	プラスチック及びその製品	16.4	8.9%	72	鉄鋼	3.6	7.0%
29	有機化学品	9.5	5.2%	11	穀粉、加工穀物など	3.0	5.8%
47	パルプ・古紙	9.4	5.1%	85	電気機器及び及びその部品	2.7	5.2%
40	ゴム及びその製品	8.3	4.5%	48	紙・板紙類	1.8	3.4%
73	鉄鋼製品	5.6	3.1%	28	無機化学品	1.7	3.3%
74	銅及びその製品	5.4	2.9%	00	再輸出品	1.6	3.0%
48	紙・板紙類	4.0	2.2%	38	各種の化学工業生産品	1.5	3.0%
	その他	32.7	17.9%		その他	14.8	28.7%
	合計	183.0	100.0%		合計	51.5	100.0%

6か国合計			
HSコード	品目名	輸送量(万トン)	シェア
72	鉄鋼	141.3	15.1%
84	機械類	122.8	13.1%
87	自動車・部品	114.5	12.2%
39	プラスチック及びその製品	85.6	9.1%
47	パルプ・古紙	80.7	8.6%
48	紙・板紙類	52.0	5.6%
40	ゴム及びその製品	36.2	3.9%
29	有機化学品	35.3	3.8%
74	銅及びその製品	24.6	2.6%
85	電気機器及び及びその部品	24.5	2.6%
	その他	218.6	23.3%
	合計	936.0	100.0%

データ出所：財務省「貿易統計」より筆者作成

注：品目名は著者による要約

おわりに

今回の記事では、日本・ASEAN 間コンテナ輸送の動向を、日本からの輸出についてまとめた。具体的には貿易統計のデータを用いて、海上コンテナ貨物量を推計し、過去 10 年間の推移を確認するとともに、直近のコンテナ輸送について品目別の動向を取りまとめた。輸入動向とインバランス、さらに最終的なまとめに関しては次回レポートにて行うこととしたい。

以上